

第1回伊賀市総合計画審議会 議事概要

開催日時	2026（令和8）年7月2日（木） 13:30～17:00
開催場所	本庁舎 4階 庁議室
出席委員	久 隆浩 （【1号委員】近畿大学） 片桐 新之介（【1号委員】合同会社 C. SSS コーポレーション） 奥井 公子 （【2号委員】公募委員） 山本 いずみ（【2号委員】公募委員） 松山 彰宏 （【3号委員】伊賀市消防団） 奥西 利江 （【3号委員】社会福祉法人維雅幸育会） 加納 圭子 （【4号委員】 — ）
欠席委員	
議事日程	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）令和8年度外部評価について （総合計画施策 No.）（施策の見出し（キーワード）） 1－2 消防・救急 2－8 上下水道 3－4 学校教育 3－5 生涯学習 4 閉会 5 その他
議事概要	1 開会 （事務局）：定刻となりましたので、ただいまから、令和8年度第1回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただきます。 会議及び議事録公開の確認 （事務局）：会議の公開ですが、「伊賀市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条により、会議を公開し、会議の傍聴を認めておりますので、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いいたします。 また、会議録についても公開させていただきますので、ご了解よろしくをお願いいたします。 資料の確認 （事務局）：それでは、事項に入らせていただく前に、配布資料の確認をさせていただきます。

委員名簿、伊賀市総合計画審議会条例を配付いたしました、その他は事前に郵送させていただきました。

また、本日は第3次総合計画の冊子をご持参いただいておりますでしょうか。

本日お持ちでない資料がありましたら、事務局へお申し出ください。

会議成立の確認

(事務局)：会議の成立でございますが、本日委員の半数以上の出席をいただいておりますので、伊賀市総合計画審議会条例第6条第2項に基づき会議は成立しております。

それでは、お手元の事項に沿って進めさせていただきます。

— 新委員紹介 —

— 事務局紹介 —

2 あいさつ

(事務局)：それでは、加納副会長よりごあいさつをいただきたいと存じます。

<副会長>：昨年度11月の審議会で、2グループに分かれて実施することが決まり、Bグループの進行を担当することとなりました。様々な施策の評価ですので、皆様のご協力がないと進めていけません。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)：ありがとうございました。以降の進行は、副会長にお願いいたします。

3 議事

<副会長>：それでは、議事に入らせていただきます。本日は、第3次伊賀市総合計画に位置付けられた施策について、令和7年度の進捗に関して各担当部局による内部評価がなされた、その評価の内容について委員の皆さんで外部評価を行います。

外部評価は昨年度も実施しましたが、今回から、各担当部局の職員が在席している状態で、直に質疑・意見交換を行う、対面評価となっています。

限られた時間の中で、有意義な外部評価となるよう、先に岩崎会長と調整を行いました外部評価の視点を再確認します。

施策評価シートの記載から、①効果検証の内容は適正か、②効果検証

で明らかになった課題に対して改善案は妥当か、③事業、施策は順調に進んでいるのかを評価します。特に、初年度ですので、現在設定している成果指標が適正なものかに注目して評価いただくと良いかと考えます。

「A 適切である」以外の「B 一部見直しの必要あり」や「C 見直しの必要あり」の評価をした場合は、所見へ見直し内容等のご意見をいただきたいと思います。

また、本日の流れですが、まず、各部局の職員から5分、施策評価シートの記述についての説明があります。

外部評価の視点に関する質疑・意見交換に25分、その質疑・意見交換の間に外部評価シートへの記入をお願いします。

一旦事務局が皆さんのシートを回収いたします。その後の10分で各委員に記入いただいた外部評価シートをもとに、グループでの総合評価を行います。

このような流れで4施策分を進めていきますので、ご協力をお願いします。

それでは、「1-2 消防・救急」施策から始めます。担当部局の入室をお願いします。

— 消防本部「1-2 消防・救急」説明—

＜副会長＞：今説明いただいたことに対し、質問等あればお願いします。

＜委員＞：日勤救急隊の整備が必要な時間帯やエリアはどのあたりでしょうか。

＜消防本部＞：消防組織再編計画にも記載していますが、過去の出動データを集約し、発生地域、時間帯を総合して考えると、伊賀市の旧市街地の救急要請が多く、平日の日中に集中しています。

集中する時間帯に、管内の救急車が1台しかないため、要請が集中すると、分署や出張所から出動することになり、距離が延び、さらに時間が増えます。出張所に救急車がない時間に、その管内で要請があると、時間が延びていきますので、出動件数の多い場所に日勤救急隊を配置します。

24時間の救急隊を配置すると人員が必要となるため、今ある人員と車両を用いて、効率的に進めています。

＜委員＞：伊賀市はDXが進んでいますので、科学的なデータを用いた方が的確に分析ができると思います。AIを利用すれば、どのような分署の担当分けが適

切か、どのような救急車の配置が時間短縮になるかが計算できます。

車両の配置台数のアンバランスがあるかもしれませんし、分署の担当範囲がずれているかもしれません。

＜消防本部＞：過去のデータは外部機関に依頼しており、そのデータをもとに最善の方法を考えています。

AI についても、津市消防本部の動向を踏まえ、運用について伺っていますので、新しい再編をしたのち、事前予測もしていきたいと考えています。

＜委員＞：効果検証の CHECK に対する ACTION の整合が取れていないのではないのでしょうか。「①消防」CHECK の上から4つ目、効果が出ている点として「他の消防団車両の老朽化」と記載されていますが、これは課題としていただくか、何か工夫が必要と思います。ACTION の下から2つ目には「消防団の活性化計画」とありますが、CHECK には課題に関係する記載がありません。整合を取るか、課題ではないのなら ACTION から抜いても良いと思います。

「②救急」の ACTION の下3つに対応する課題がありません。課題には救急車の到着時間の短縮についてだけ書かれているので、ACTION の下3つは書く必要がない、もしくは課題を書いてほしいと思います。計画に基づいて動くということは宣言なので、順調に進んでいるのであれば ACTION から抜いてもいいかと思います。重要なのは、めざす姿が「火災や急病で人命が失われない」ということなので、死者が0人であれば達成できているということになります。施策評価シートに色々なことが書かれ過ぎていると思います。

また、出火件数の増加は、人命へのリスクの増加ということですが、このことについての考えが書かれていないのはもったいないと思います。

＜消防本部＞：伊賀市は枯草焼却から燃え広がることが非常に多く、人為的なものなので広報だけでは対策が難しいです。やむを得ず容認していますが、一概に禁止することはしかねます。林野火災注意報で出火件数を減らしていきたいと考えています。

＜委員＞：農業関係者に対して周知徹底はされていますか。

＜消防本部＞：農業従事者に直接お願いすることは難しいので、ホームセンターや農協と協力して取り組みを進めます。

＜委員＞：農業委員会から各農家さんに伝えてもらうことは難しくないと思いますので、連携してほしいと思います。

＜消防本部＞：農業振興課とも連携し、両輪で進めています。

＜委員＞：そういった点を強調してほしいと思います。

＜委員＞：ハザードンでの情報は地区の役員を含めすべての人に通知がいきっており火災の周知になっていると実感しています。

分署の候補地の選定は、科学的な分析と地域住民との連携と両方で進めてもらいたいです。

＜委員＞：「①消防」CHECK の下から2つ目、立入検査について「重大な違反」とは何か。また、これに対応する ACTION が従来と同じなら時間がかかると思います。

＜消防本部＞：不特定多数の人が出入りする飲食店などで、面積によりますがスプリンクラー設備、火災報知設備、屋内消火栓など、人命に直結する消防設備があります。重大な違反があれば把握した時点で指導勧告をしますが、高額な設備投資になるので、進捗していないところがあります。重大違反を見つけるには、4,000 施設の防火対象物という建物があり、予防課だけでは回り切れないので、実働部隊も立入検査をしていくということが対策として捉えています。

＜委員＞：立入検査について、事業者とやり取りしている間、職員に限りがあるので、出火率に影響があるのでしょうか。もしあれば立入検査の手順や事業所の優先度などのアクションを求めたいです。

＜消防本部＞：4,000 近くの施設を網羅しかねていますが、利用者数などで優先順位を決め、計画を立てています。

＜委員＞：4,000 施設とは、現在の消防法に抵触していない古い施設のことですか。

＜消防本部＞：消火器を置く必要のある建物が4,000 施設あります。

＜委員＞：消防団の活性化計画についてあまり触れていませんが、消防団の加入率について、精算などの管理が大変で苦労されているので、そこを解決す

るのも持続可能な体制作りになります。DXによる解決は何かされていますか。

＜消防本部＞：消防団員について、動員があったら費用弁償、出勤報酬があり国の期基準で支払っています。団員の負担軽減につながるため、DX化する必要があると考えています。何が最適であるかは第4次活性化計画に向けて検討しています。

＜副会長＞ありがとうございました。それでは、協議を行いグループでの総合評価を行います。各自どのような評価をしましたか。

（1）効果検証の適正性についてはA評価が3人、B評価が4人です。
評価の見直しが必要な内容について、どう見直すべきか意見があればお願いします。

＜委員＞：整理の仕方をしっかりしないといけないと思います。

＜副会長＞：効果検証と改善案のズレが見られますので、B評価ということでもいいですか。

つづいて（2）事務事業改善案の妥当性ですが、A評価が2人、B評価が5人で、一部見直しの意見が多いです。

重大な課題について、もう少し見直していただくということだと思います。

＜委員＞：効果検証の適正性と事務事業改善案の妥当性は関連すると思いますのでB評価としてほしいです。

＜副会長＞：（3）施策の進捗状況については4段階評価です。A評価が3人、B評価が4人、順調、概ね順調ということですが、理由についてはいいですか。B評価ということによろしいですか。

「1-2 消防・救急」の外部評価を終わります。

続いて「2-8 上下水道」です。担当部局の入室をお願いします。

— 上下水道部「2-8 上下水道」説明 —

＜委員＞：たくさん書きすぎていると思いますので、安定した経営ができているかということと老朽化問題にどう早急に対応できるかに絞り、特に効果が出た点を記載すれば分かりやすいシートになると思います。

「②下水道」について、集落下水道の処理区の統合については、処理

場の費用が軽減され安定した運営に寄与していると思いますので、合区した結果費用の軽減が図られたというところまで書いていただければ、成果が分かります。

「有収率」は経営者側の視点の指標です。市民目線で言うと「配水のうちどれだけ手元に届いているか」ということなので、「漏水ゼロ」などの方が伝わりやすいと思います。

＜委員＞：水道局は独立採算ですので、債務残高を改善することが大事です。経営戦略の見直しについて記載があることもそういったことへの対応だと思います。経営をどうしていくかが ACTON から見えてこないのか、有収率だけでいいのか、考えていただきたいです。

＜上下水道部＞：安定した経営に対する部分を担保しながら、収益を老朽化や設備の更新に費用を投資することで、安心して安全な水を届けていきます。

経営戦略に基づき更新にも力を入れていきたいと思っています。ご指摘いただいた部分について、具体的に記載させていただきたいと思っています。

＜委員＞：令和 10 年度の有収率の目標値 85%は良いものなののでしょうか。全国平均などはどうなっていますか。

＜上下水道部＞：高度経済成長時代に整備した施設が耐用年数を迎えており、工事して更新していくことがままならないため漏水が起こっています。いかにして漏水を見つけて直すか、更新費用の確保など、有収率向上に資する取組を進めます。85%は野心的な目標です。

＜委員＞：水源の確保はできていますか。また、脱炭素に関して計画の中にどう盛り込むのか教えてください。

＜上下水道部＞：端々まで管路をつなぐことはできませんが、既存施設の老朽度合いと小さな水源を考え、安定的にコストを安くするにはどうするか、基本計画に基づき進めています。水源の確保は安定して見込んでいます。

脱炭素については、具体的な成果は上がっていませんが、太陽光発電などについて計画に書かれています。施策評価では安全安心な水の供給に重点を置いています。

中心市街地で公共下水道事業が出来ておらず、面整備を終了し、

個別処理の合併処理浄化槽の整備を進めています。合併処理浄化槽に補助をし、生活環境の改善と公共用水域の水質保全に寄与する取組に力を入れています。

農業振興地域では、農業集落排水の処理区の統廃合を進めており、効率的な事業を進めていきたいと考えています。伊賀市が独自に面整備をすると色々な進捗率が上がるのですが、個人が主体となって合併浄化槽に切り替えていく段階にあります。

＜委員＞：公共下水と集落下水は市が責任を持って水を綺麗にしてくれますが、あとは個別浄化でどのように水質を上げていくかだと思います。そのことが見て分からないので、うまく書いてほしいと思います。

また、「めざす姿」を書きすぎていると思います。「美しい水環境を守る」となると水質環境が知りたくなります。合併浄化槽が増えることで水質が上がっているとなるとアウトカム指標となりますので検討いただきたいと思います。

＜副会長＞ありがとうございました。それでは、グループでの総合評価を行います。

（１）効果検証の適正性についてですが、書きぶりについて意見をいただいています。

＜委員＞：大きく書き直していただかなくても、文章の書き方やデータがあると見え方が変わると思います。

＜副会長＞：Ｂ評価でよろしいですか。続いて（２）事務事業改善案の妥当性について、Ｂ評価でよろしいですか。最後、進捗状況についてＡ評価としてよろしいでしょうか。

「２－８上下水道」の外部評価を終わります。

続いて「３－４学校教育」です。担当部局の入室をお願いします。

— 教育委員会事務局「３－４学校教育」説明 —

＜委員＞：「②教育環境」について、「GIGA（タブレット）端末の活用状況」は数値としては良いですが、全国学力・学習状況調査の中学校の結果が全国平均を下回っています。この関係を ACTON にどう活かしますか、取組があれば教えてください。

また、めざす姿に人権・同和教育やキャリア教育の記載がありますが、CHECK、PLAN、ACTION が書かれていないので、具体的な取組を書いてほしいです。

最後に、GIGA 端末を導入している自治体では、こどもがノートの取り方を分かっていないという課題があります。学力の全国平均を下回っていることにも関わるのかと思いますので、活用状況の細かい部分まで考えてほしいです。

＜教育委員会事務局＞： GIGA 端末を活用して6年目になりますが、初めは使うことに重きを置いていましたが、現在では効果的な使い方やノートでの学習とタブレットの学習をどう関わらせるかが課題となっています。現在、先生への研修を毎年2回行っています。また、ミライシードという教材を使い自分の学習を自分で決めていくことを進めています。学習の区切りがついたときに、アプリで、それぞれに合った学習を進めていく、このような学習形態の定着を進めています。

人権教育、キャリア教育については施策評価シートにはないですが、細かい指標はそれぞれあります。学力の部分を主にここでは明記しています。

伊賀市の生徒は全国平均を下回っていますが、アンケートを見ると、学習について「よく分かる」「必要である」という回答が多いです。しかしながら結果が伴っていないという特徴があるので、質を変えることで結果が変わると考えています。

＜委員＞：「～しています」という書き方が多く成果が見えません。「②教育環境」は課題が書かれていないのに ACTION が書かれています。ACTION は課題をいかに解決するかを書くものなので、CHECK と ACTION の整合性を考えてほしいです。

学力については、「①学校教育」の CHECK について、教職員の授業改善に課題があるから結果が出てこないとされていて、ACTION では教職経験の浅い教職員が増えているためと書かれています。これを見ると、教職員の経験が浅く、うまく教えられないため伸び悩んでいるというストーリーになってしまいます。そうではないと思いますので、ここの書き方は工夫していただきたいです。

こどもたちは理解できていると思っているが成果が出ていないということが一番のポイントだと思います。簡単な問題は暗記で乗り越えられますが、思考力を問う問題に対応できていないことが課題だと思います。

思考力をどのように身に付けさせるかを先生方に理解してもらうことが必要なので、そういったことについて書いていただきたいと思います。

教育委員会や教育センターが分析した成果を先生方に渡し、一緒に授業改善に取り組むことをここに書くべきだと思います。

勉強すべきなのはベテランの先生だと思います。AI が出てきますので使いこなせないと生徒たちに教えられません。若い先生の方がグループ学習や探求学習が得意かもしれませんので、経験が浅いという理由だけでは誤解を招きます。どうすれば最終目標の学力が上がるのかを見極めながら書いていただければ嬉しいです。

＜教育委員会事務局＞：大学の先生に入っていただき、学力向上プロジェクト委員会をしますが、そこで、思考力を問うことが抜けてないか、簡単な授業をしていませんかと問われました。授業改善を主として考える必要があると考えています。

＜委員＞：公式を覚えるだけではなく、応用力が必要です。教え方について一緒に分析してもらった方がよいと思います。

＜委員＞：特別な支援が必要な生徒については、家庭で様々な課題を抱えていることもあると思います。地域包括支援が必要と思いますが、ACTION の「他機関との関り」という部分で記載されているという認識でいいでしょうか。

＜教育委員会事務局＞：その通りです。新たな課題に対し、他の機関と連携し対応しています。

＜委員＞：学校との共有など、DX も含めて考えてほしいと思います。

＜委員＞：GIGA 端末の活用状況の数値について、令和 7 年度の 87.8%（小 6）となっていますが、中学 3 年生の数値は入ってないのですか。

＜教育委員会事務局＞：全国学力・学習状況調査の項目が変わる場合があります。この部分については確認します。

＜副会長＞：特別な支援について、検証すると新たなニーズが出てくるとは思います、効果など、こどもたちに何か変容があれば書いてほしいと思います。到達点はないと思いますが、新たなニーズも含め、支援の充実が図れたらと思います。

＜委員＞：タブレットを配るのは教育環境、どう使うかは学校教育だと思います。

＜副会長＞：それでは、グループでの総合評価を行います。

シートへの明記の仕方と検証の仕方にズレを感じます。学校教育は範囲が広いのでどう絞るかも考えてもらわないといけませんが、市民が見て、何を大事にして何に取り組んでいるかが見えません。

全てB評価でよろしいでしょうか。

これで、「3-4 学校教育」の外部評価を終わります。

続いて「3-5 生涯学習」です。担当部局の入室をお願いします。

— 教育委員会事務局「3-5 生涯学習」説明 —

＜副会長＞：以上、説明が終わりました。評価するにあたり、疑問点やご意見等ありましたらご発言ください。

＜委員＞：CHECK には「～しました」と事業内容を書かれていますので、その成果を書いてほしいです。

生涯学習を、新しい公共を担う人材を育てることと位置付けている市もあります。趣味教養を高めることでは終わらず、いかに地域に還元できるかといった、地域活動や自治意識を高めるために社会教育を位置付けています。こういったことは、満足度を上げていくだけでは転換が進まないのので、公共の人材育成についてどれだけ達成できたかを測る必要があると思います。

ACTION では計画通り進めると書かれていますが、今のままで良いのか疑問に思います。

伊賀市は自治協をうまく運営できる人材を生生涯学習から生み出していただくことが重要ですので、評価をしてほしいと思います。

青少年健全育成では、図書室の魅力アップについて他市の事例も参考にさせていただくと良いと思います。

伊賀市中央図書館は直営です、新たな運営体制ということでは、指定管理者といかに連携しながら成果を上げるかをしっかり評価していただきたいと思います。

全体的に重要な部分を重点的に評価していただきたいと思います。

＜委員＞：行政が提供するサービスが多く、市民が内発的に何かすることを想起することが書かれていません。次の総合計画ではどういうふうに住民自治市民活動につながるか、取組を考えてほしいと思います。そういったことがACTION に書かれていないのは残念に思います。

＜委員＞：人口が減る中で生涯学習は、地域をどう支えるかという視点が大事だと思います。参加する人の高齢化などで偏っていると思いますので改善策や評価が必要だと思います。

＜委員＞：「②青少年健全育成」の小・中・高校生の不読率について、高校生はイベントがないと図書室には行かないと思います。小学生は読書が義務という側面もあるので不読率は低いと思います。中央図書館にみんなが行くわけではないと思うので、行きたくなる学校図書室の工夫について課題として捉え、ACTIONにつなげてほしいと思います。

ソファや漫画を置くなど、きっかけを作れたら良いと思います。

＜副会長＞：課題があるのに ACTION が「計画通り進めている」でいいのですか。
新たな課題が見えてきつつあるのに「計画通り進めている」のでしょうか。

＜教育委員会事務局＞：今年度以降考えていく上では「計画通り進めている」ではないと考えています。

＜副会長＞：ご一考いただければと思います。中央図書館ができて期待も大きく、生涯学習が広がっていくことは嬉しいことですので、よろしくお願いします。

＜委員＞：それぞれ大きな柱がありますので、全てを評価する必要はないと思います。
漫画を図書館に置くことはどう考えていますか。

＜教育委員会事務局＞：学校図書館では置いているところもあります。

＜委員＞：漫画から入って文字を読むことに活かすのは今のこどもにとって良いことだと思いますので積極的に置いてもらえたらと思います。

＜委員＞：駅に本棚があり、高校生が読んでいるのを見ます。そういった図書館機能も大事だと思いました。移動図書も今後楽しみにしています。

＜委員＞：図書館について、忍者関連の文献を全部揃えるなどすれば、シビックプライドの醸成にもつながると思います。

＜委員＞：阿山文化センターの活用について、文化振興課が担当されていると思いま

すが、阿山地域の地域共同の拠点になればいいと思っていますので、教育委員会の方も、阿山文化センターの活用と一緒に考えていただければと思います。

＜副会長＞：「基本事業の進捗」が「完了」なのは、図書館ができたからなのでしょう
か。

＜教育委員会事務局＞：中央図書館ができたので完了としていますが、実際にはこれ
から取組を進めていく必要がありますので完了ではありません。
す。

＜副会長＞：そのような捉え方もできるのでまた検討いただければと思います。
それでは、グループでの総合評価を行います。

（１）効果検証の適正性はＢ評価、（２）事務事業改善案の妥当性もＢ
評価、進捗についてはＣということによろしいでしょうか。

＜委員＞：頑張ってくれてはいますが、社会が大きく変わる中で ACTION がこのままで
は同じ形になってしまいますのでＣ評価としました。

＜副会長＞：ありがとうございました。以上で本日の議事は終了し、進行を事務局へ
お返しします。

4 閉会

（事務局）：活発な審議をありがとうございました。以上で令和８年度第１回伊賀市総
合計画審議会を閉会させていただきます。

最後に、その他として事務局から連絡があります。

5 その他

（事務局）：次回は７月７日（火）１３時００分から１７時００分です。１７日（金）はＡグ
ループＢグループ合同で、書面審査の結果と評価の報告を行います。１７日
（金）以降報告書をまとめ、メールでお送りします。ご了承いただければ
たら答申とさせていただきます。以上です。

ありがとうございました。本日の会議を終了します。